

最近の経済動向

令和2年1月号

(北海道の景気動向～令和元年11月の経済指標を中心として)

緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる

■生産動向

P1 生産活動(鉱工業生産指数)

弱い動きが続いている

■需要動向(消費・投資)

P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、新車登録台数)

一部に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の動きが残っている

P5 住宅建設(新設住宅着工戸数)

減少基調となっている

P6 公共工事(公共工事請負金額)

減少している

P7 観光(来道者数、来道外国人数)

改善の動きに弱さがみられる

P9 輸出入(輸出額、輸入額)

輸出額、輸入額とも前年を下回った

■企業倒産

P10 企業倒産(倒産件数、負債総額)

倒産件数は減少し、負債総額は増加した

■雇用動向

P12 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)

改善が進む中、人手不足感がみられる

■物価動向

P14 物価(消費者物価指数)

消費者物価指数は前年を上回った

■企業の業況感

P15 企業経営者意識調査

前期からして下降している

P16 企業のみなさまから伺いました

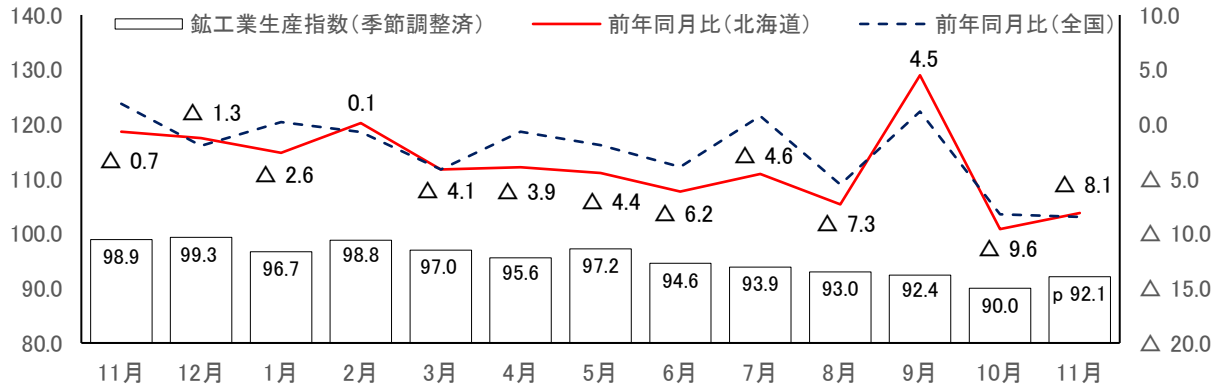
生産活動～弱い動きが続いている

鉱工業生産指数（11月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、92.1で前月比+2.3%（6か月ぶりの上昇）であり、原指数による前年同月比は、△8.0%（2か月連続の減少）となった。業種別にみると、一般機械工業等8業種が前月比低下、食料品工業等6業種が前月比上昇となった。

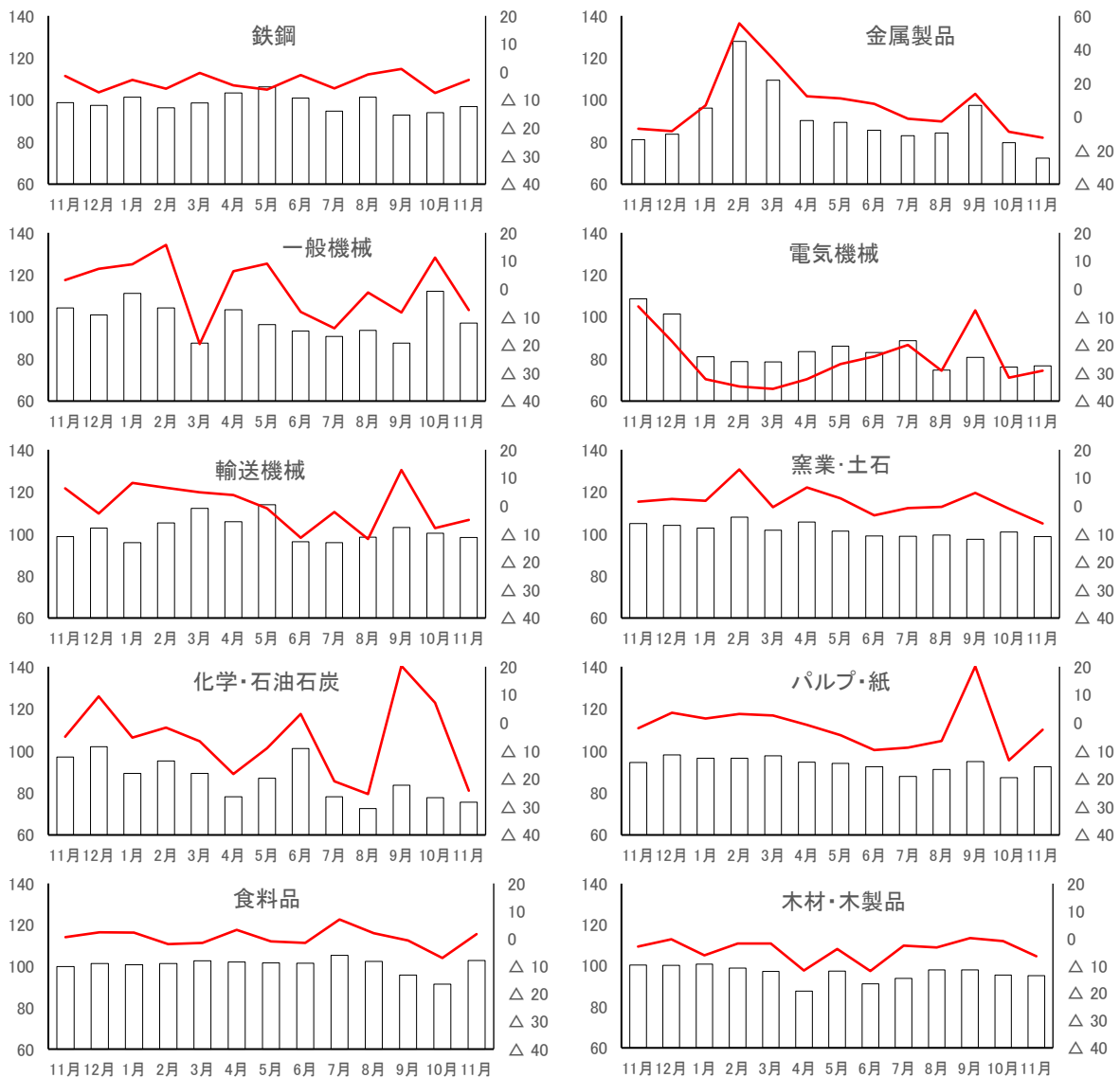
（季節調整済指数：平成27年＝100）

（原指数前年同月比：%）



*「p」は速報値

■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

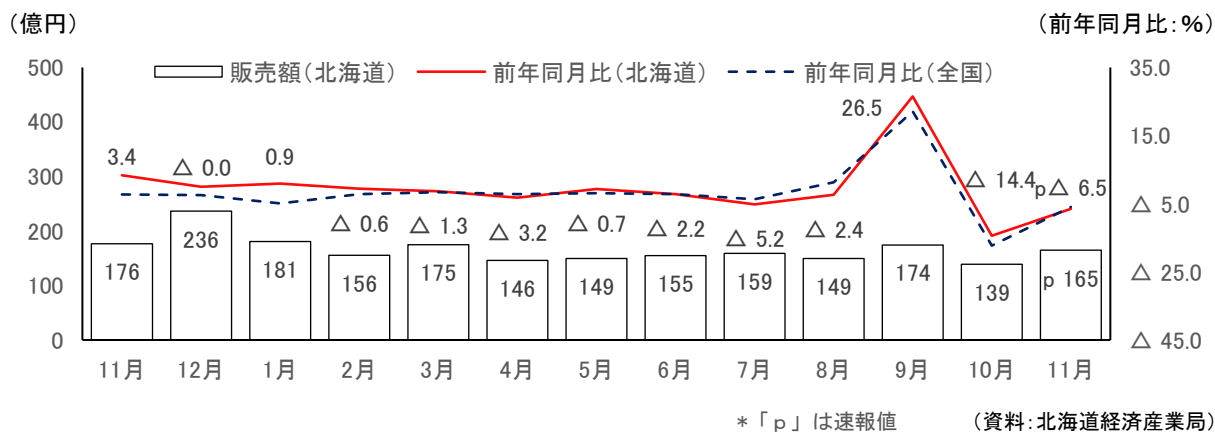


（資料：北海道経済産業局）

■個人消費～一部に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の動きが残っている

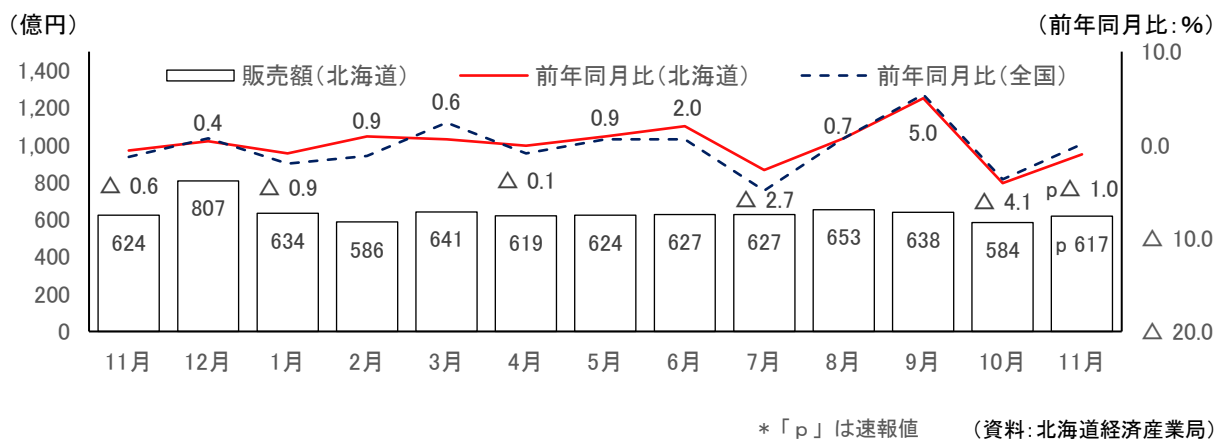
百貨店販売額（11月）

百貨店販売額は、165億円で前年同月比6.5%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



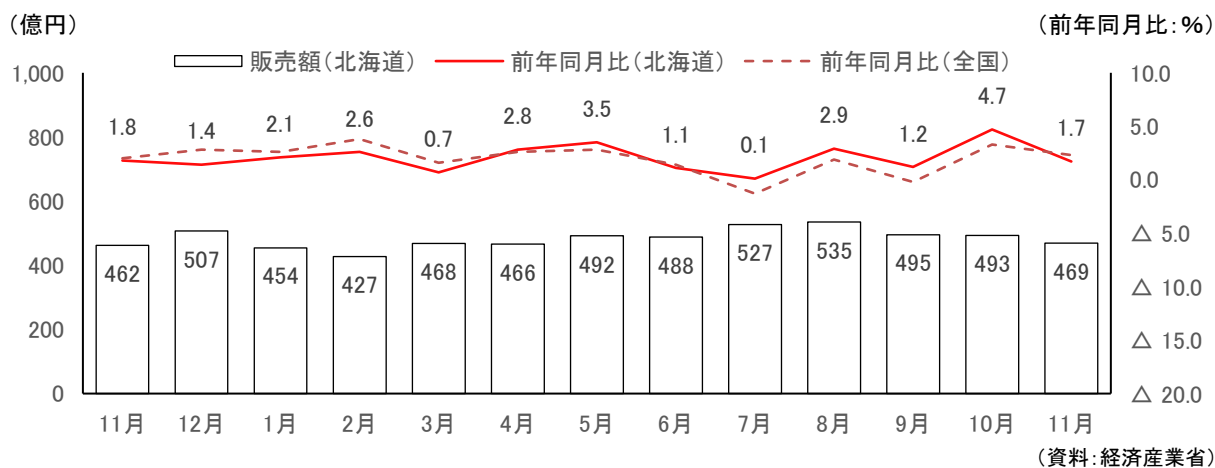
スーパー販売額（11月）

スーパー販売額は、617億円で前年同月比1.0%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



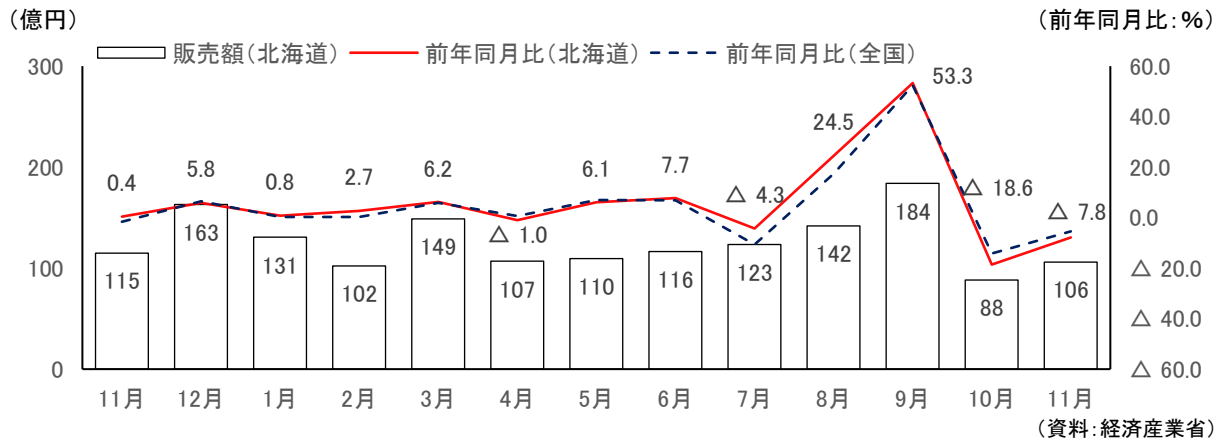
コンビニエンスストア販売額（11月）

コンビニエンスストア販売額は、469億円で前年同月比1.7%の増加となり、13か月連続で前年を上回った。



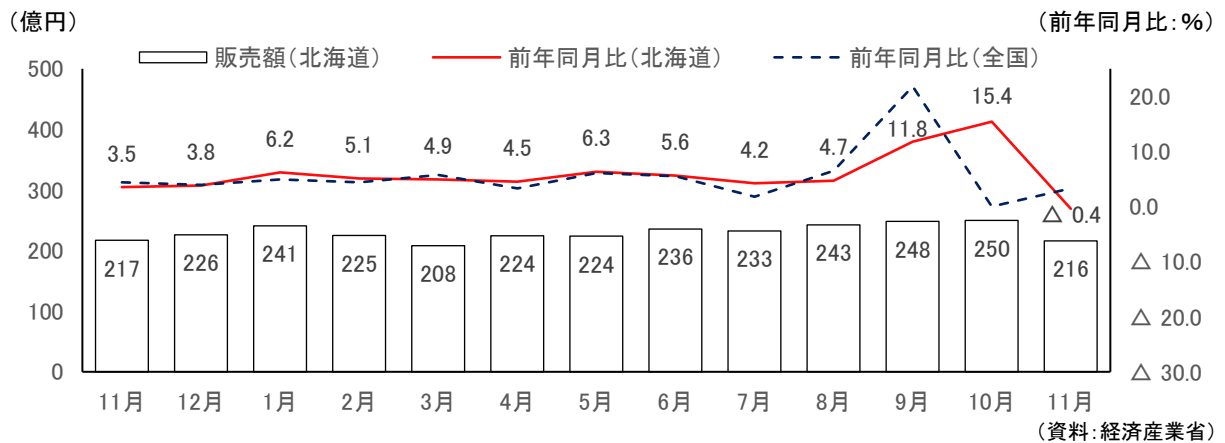
家電大型専門店販売額（11月）

家電大型専門店販売額は、106 億円で前年同月比 7.8%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



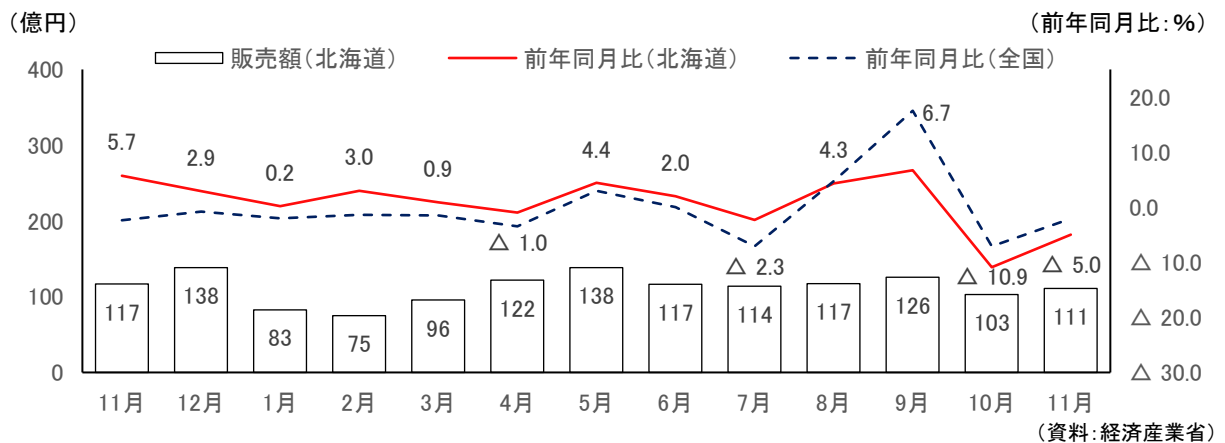
ドラッグストア販売額（11月）

ドラッグストア販売額は、216 億円で前年同月比 0.4%の減少となり、55 か月ぶりに前年を下回った。



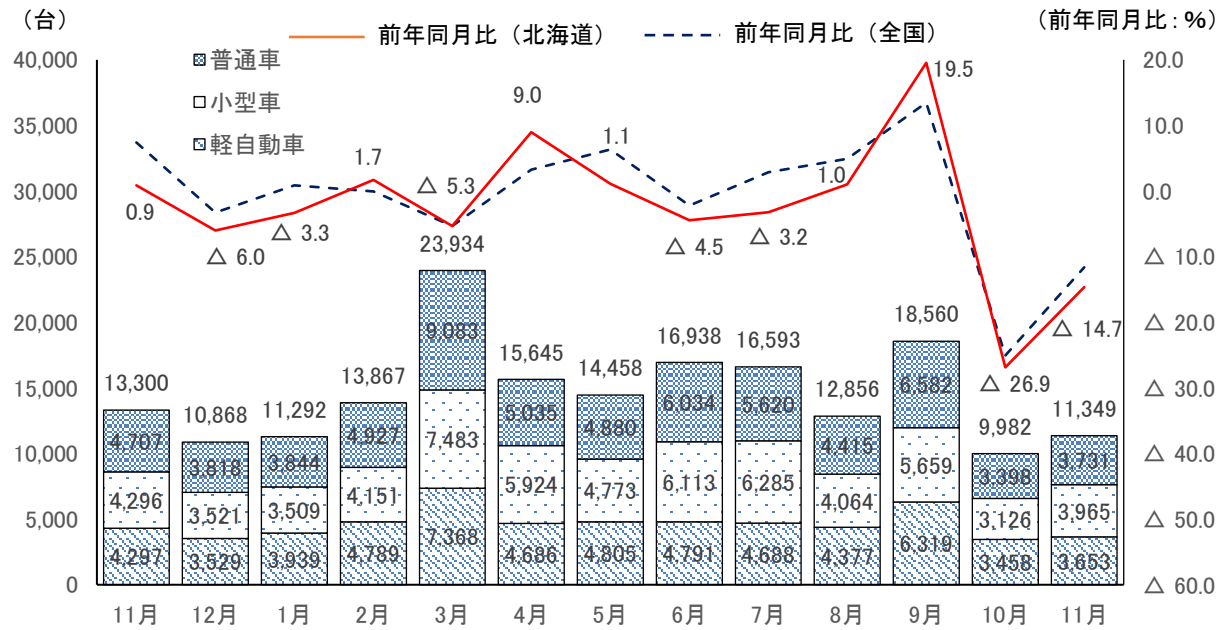
ホームセンター販売額（11月）

ホームセンター販売額は、111 億円で前年同月比 5.0%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。

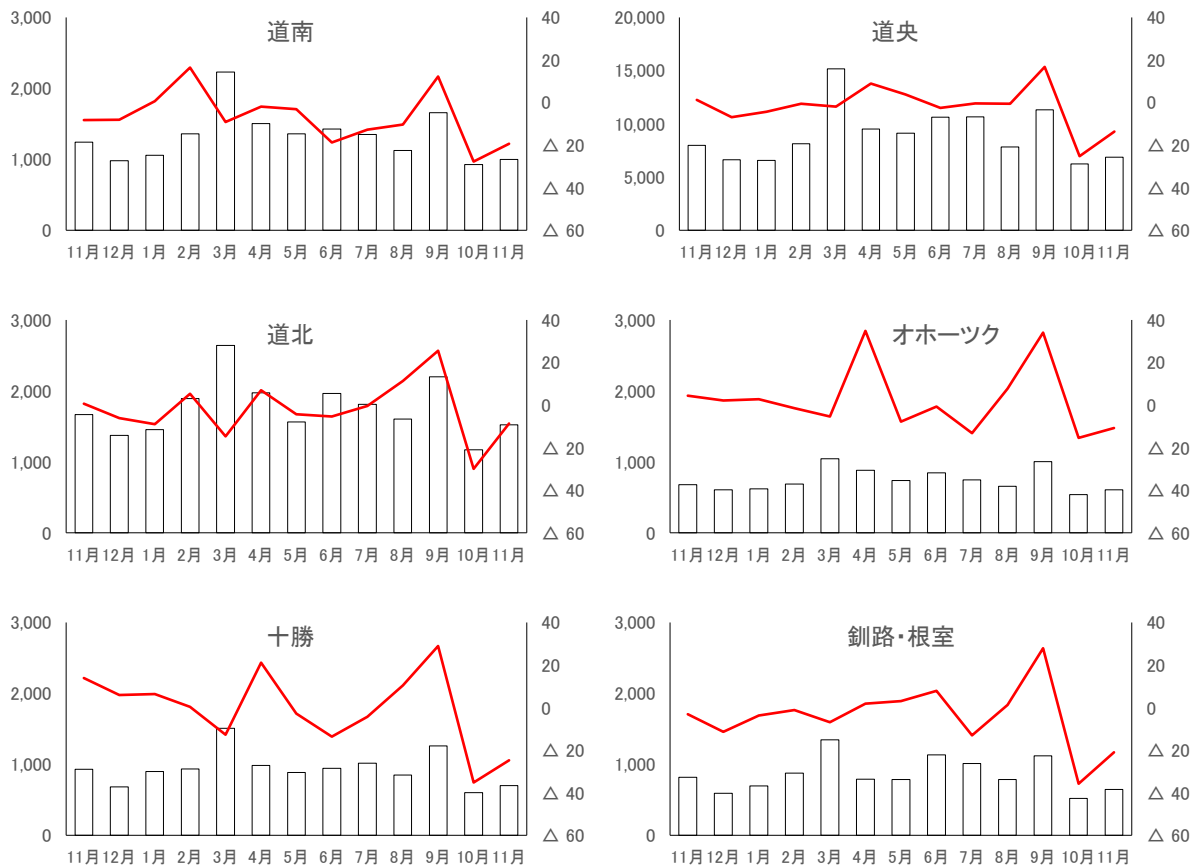


新車登録台数（11月）

新車登録台数は、11,349台で前年同月比14.7%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、3,731台で同20.7%の減少、小型車は、3,965台で同7.7%の減少、軽自動車は、3,653台で同15.0%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）



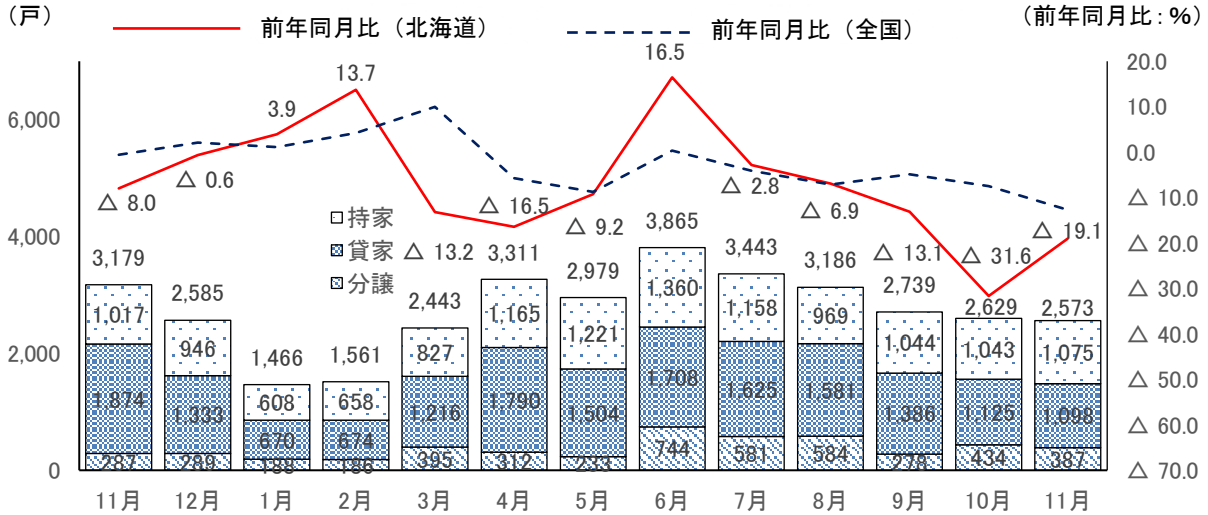
（資料：（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会）

■住宅建設～減少基調となっている

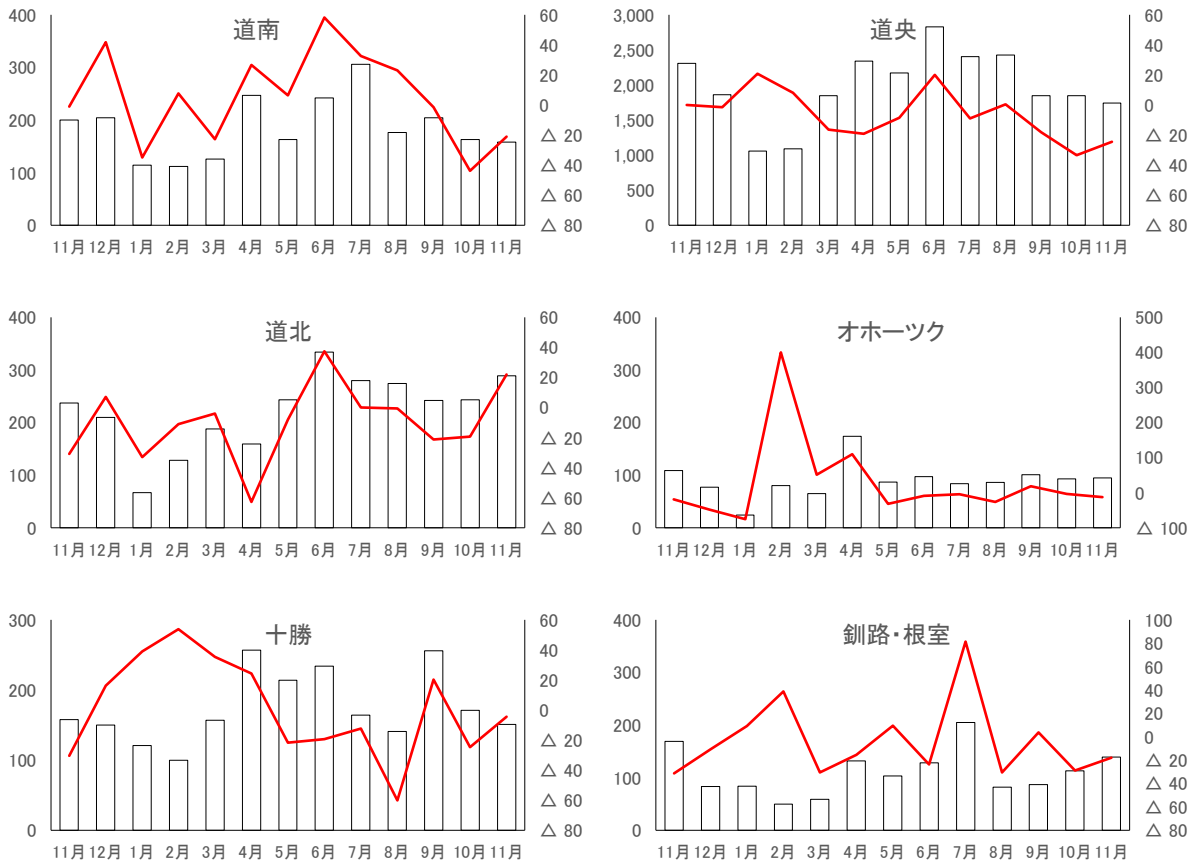
新設住宅着工戸数（11月）

住宅着工戸数は、2,573戸で前年同月比19.1%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。

利用関係別にみると、持家は、1,075戸で同5.7%の増加、貸家は、1,098戸で同41.4%の減少、分譲住宅は、387戸で同34.8%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

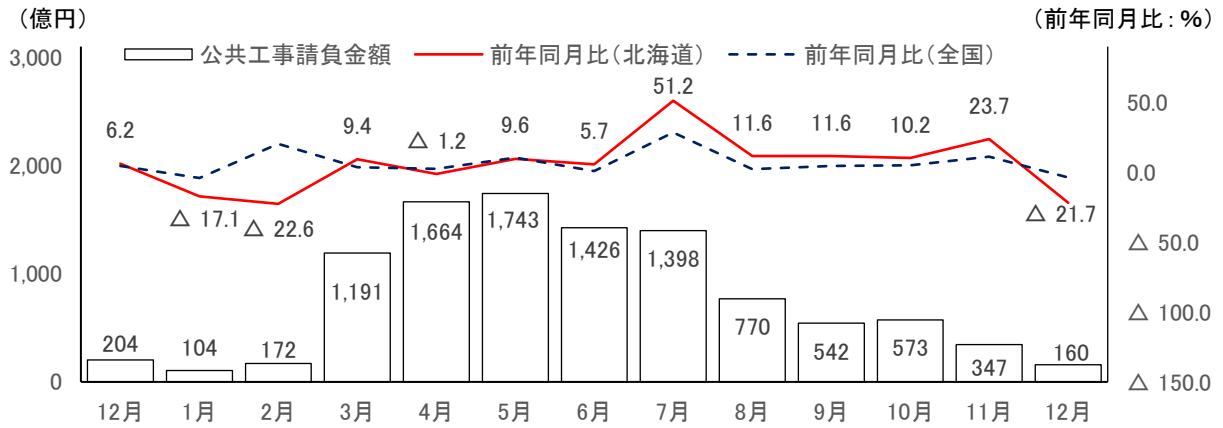


(資料:国土交通省)

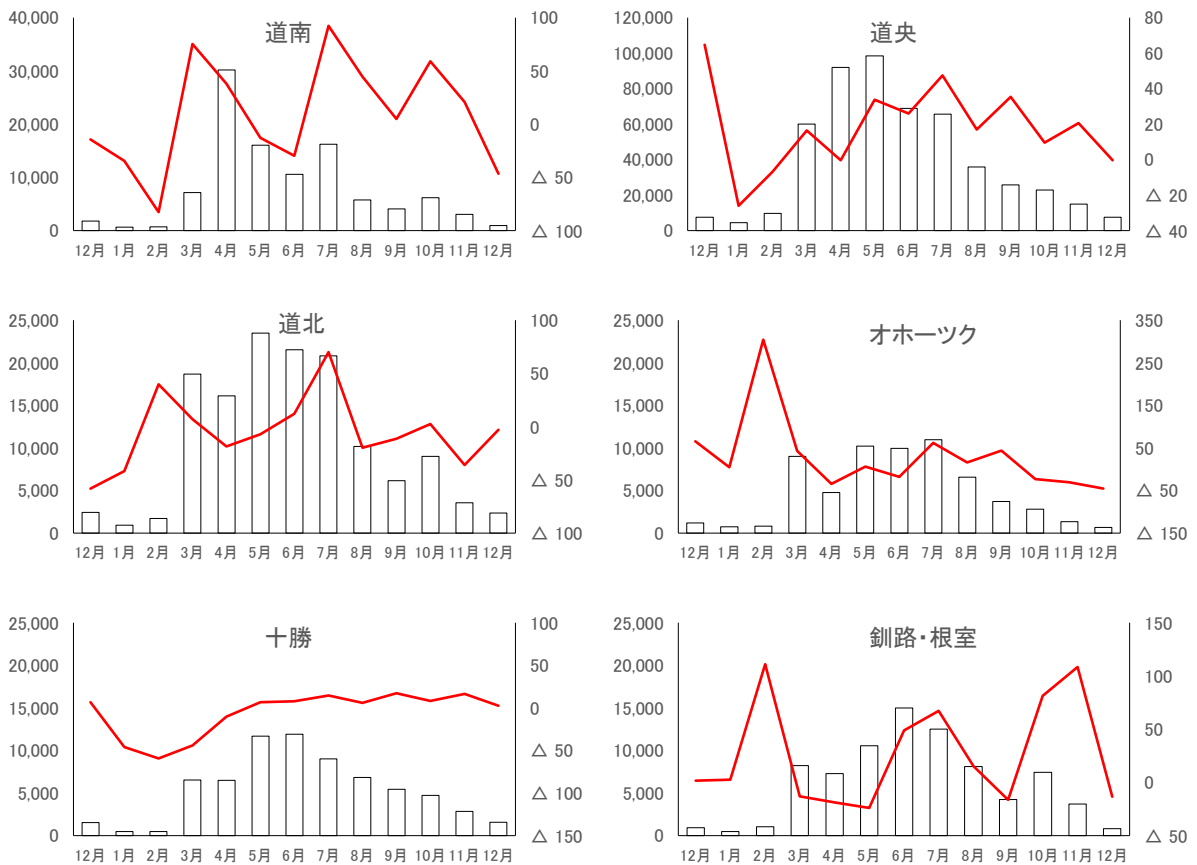
■公共工事～減少している

公共工事請負金額（12月）

請負金額は、160億円で前年同月比21.7%の減少となり、8か月ぶりに前年を下回った。



■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）



(資料:北海道建設業信用保証(株))

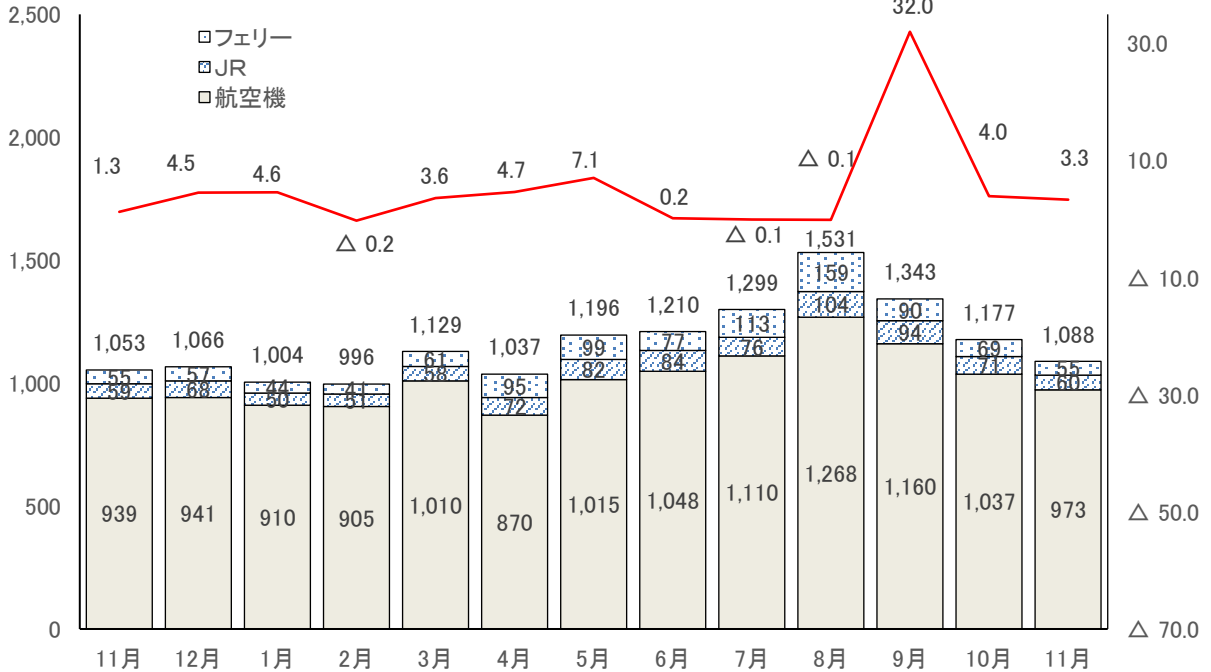
■観光～改善の動きに弱さが見られる

来道者数（11月）

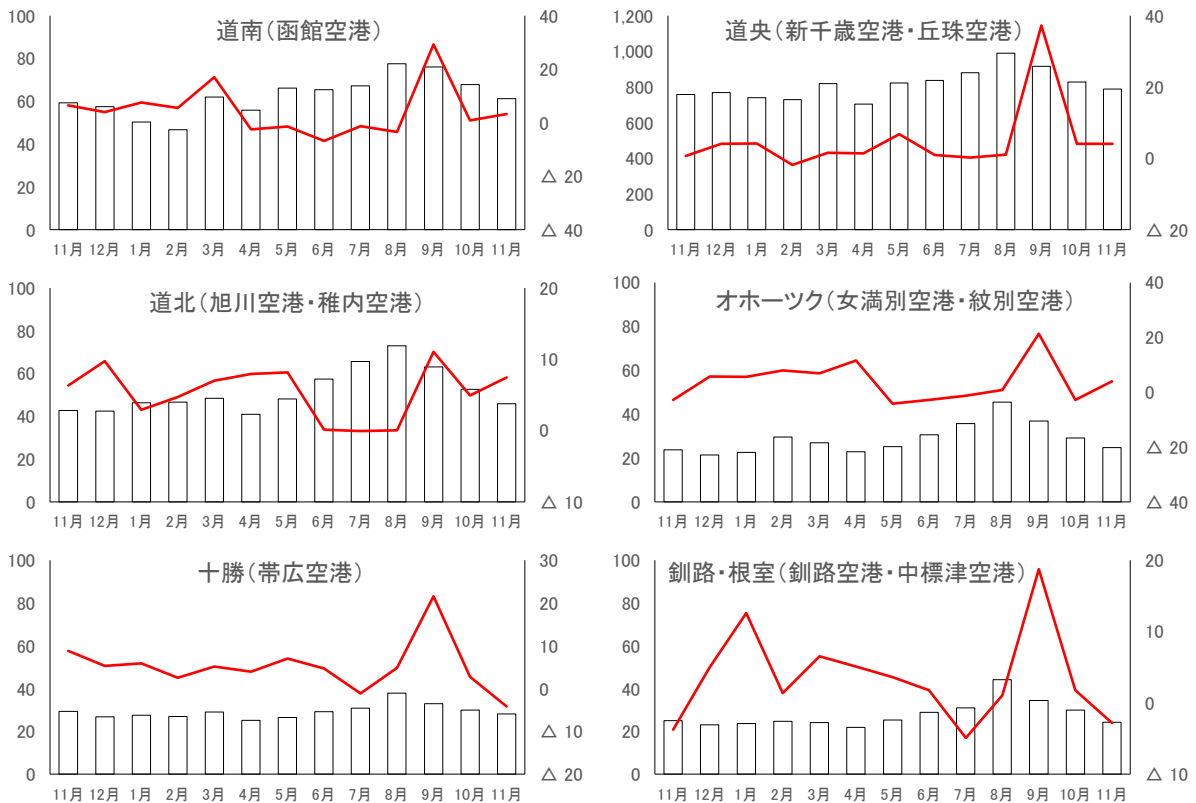
来道者数は、108万8千人で前年同月比3.3%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。

(千人)

(前年同月比：%)



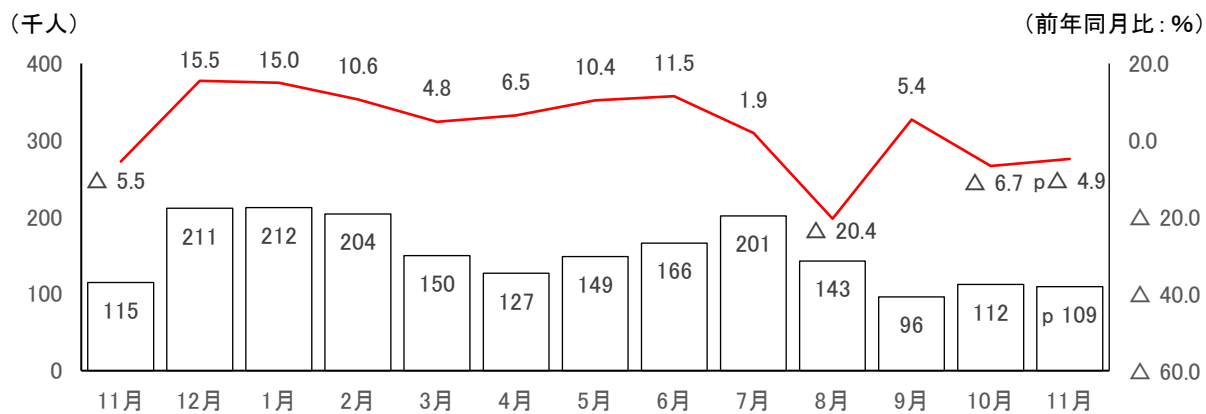
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（11月）

本道に直接入国した外国人は、10万9千人で前年同月比4.9%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



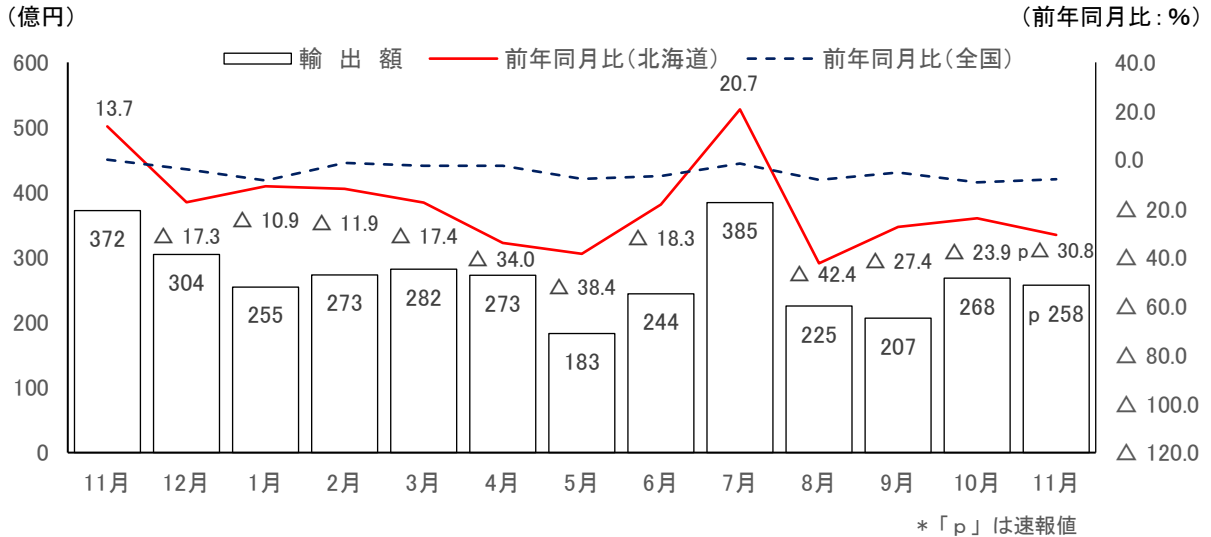
*「p」は速報値

(資料:法務省入国管理局)

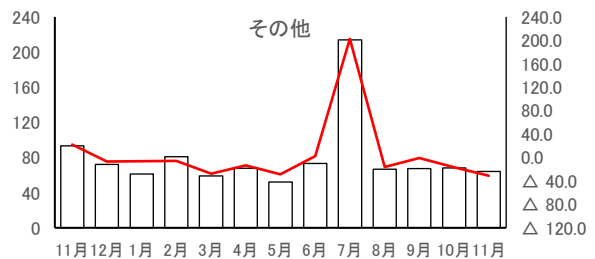
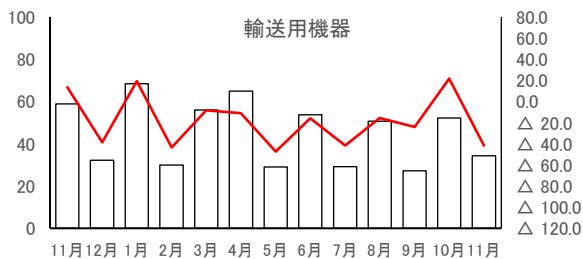
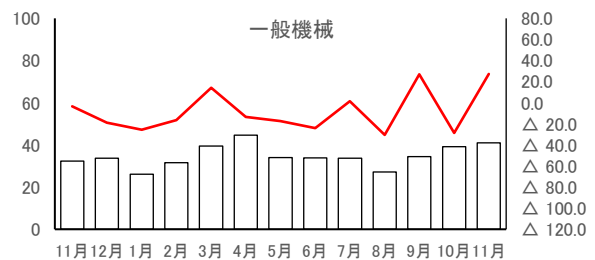
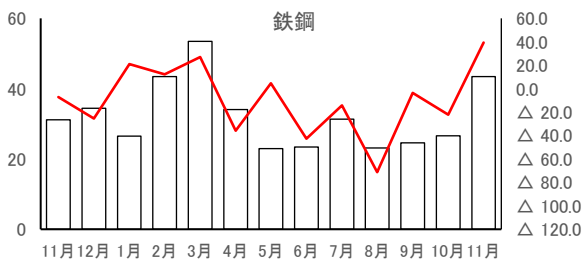
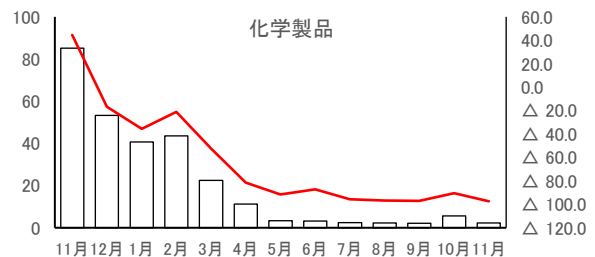
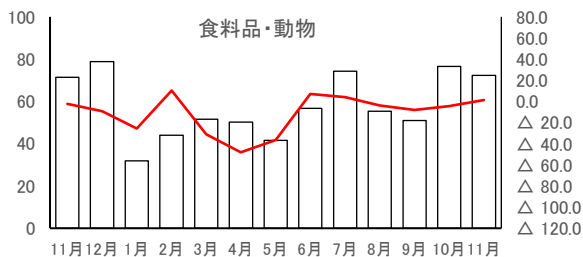
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

輸出額（11月）

輸出額は、258億円で前年同月比30.8%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。品目別にみると、化学製品（有機化合物、鉱物性タール・粗製薬品、石油製品）などが減少した。



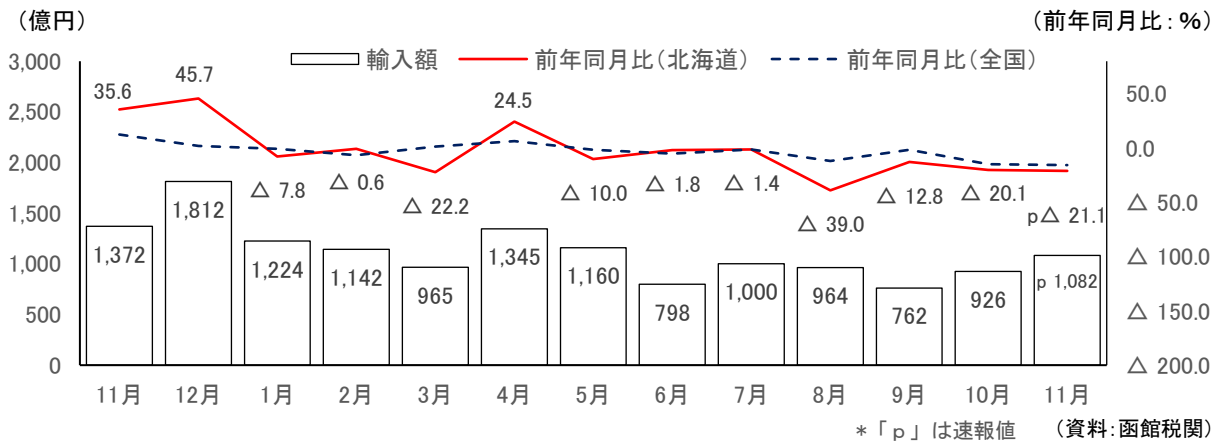
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料:函館税関)

輸入額（11月）

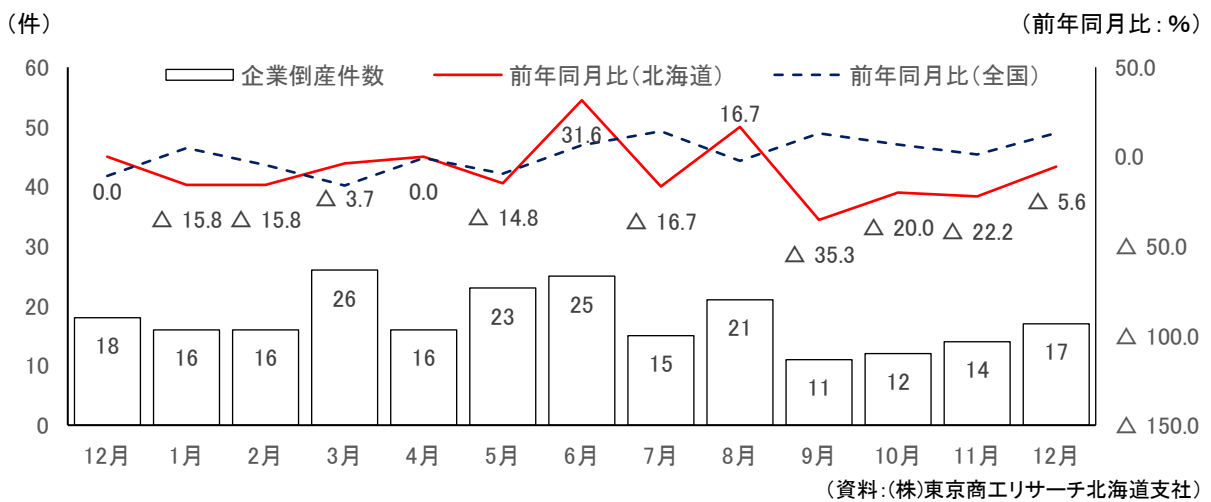
輸入額は、1,082億円で同21.1%の減少となり、7か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、石油製品、魚介類・同調製品、石炭などが減少した。



■企業倒産～倒産件数は減少し、負債総額は増加した

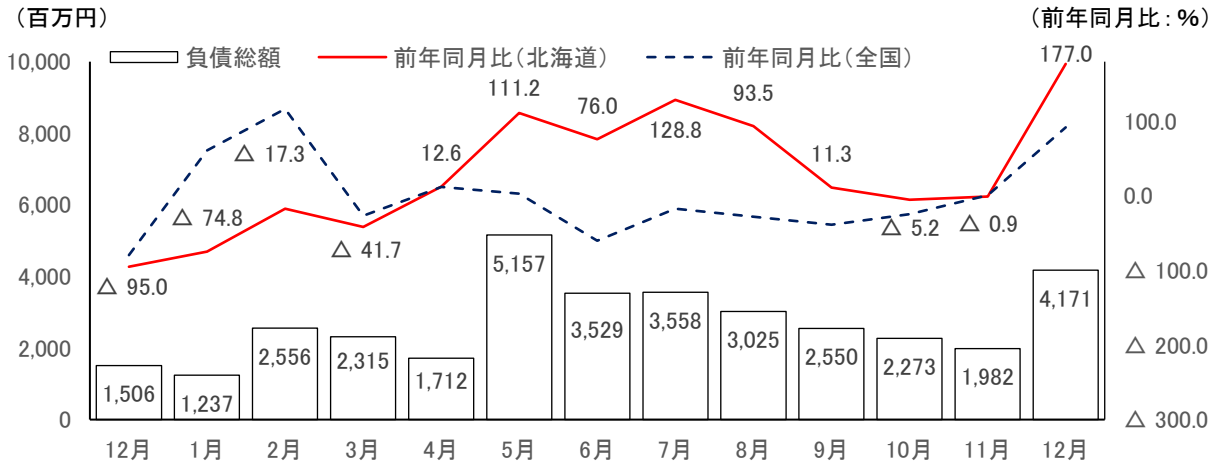
倒産件数（12月）

企業倒産件数は17件で前年同月比5.6%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。
原因別でみると、販売不振が11件（構成比64.7%）と半数以上を占めた。
業種別でみると、サービス業が5件（構成比29.4%）、卸売業が4件（構成比23.5%）、建設業・小売業が各3件（構成比各17.6%）となった。

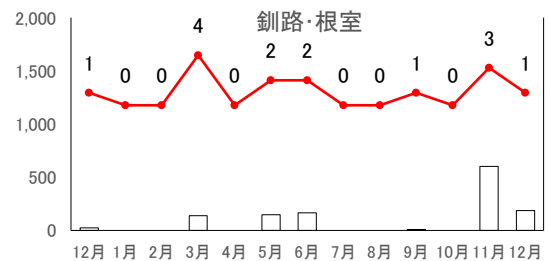
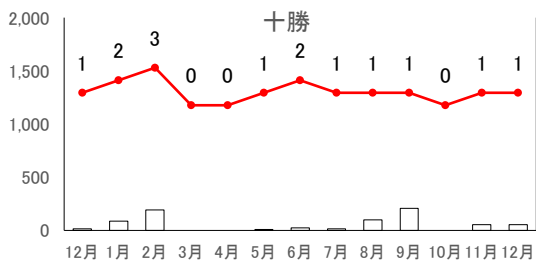
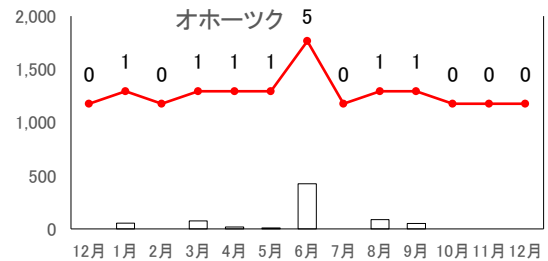
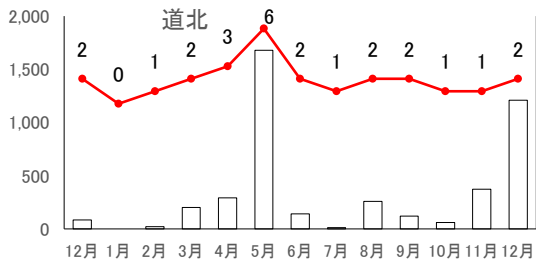
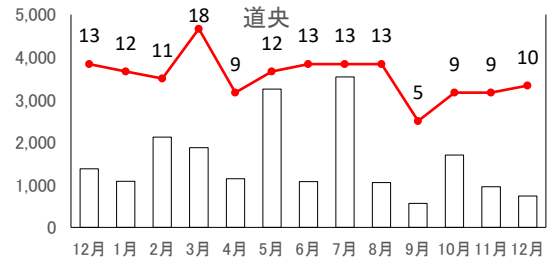
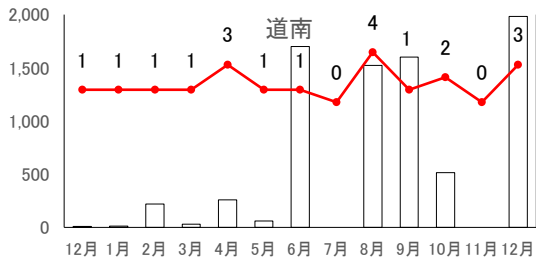


負債総額（12月）

負債総額は、41億71百万177.0%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



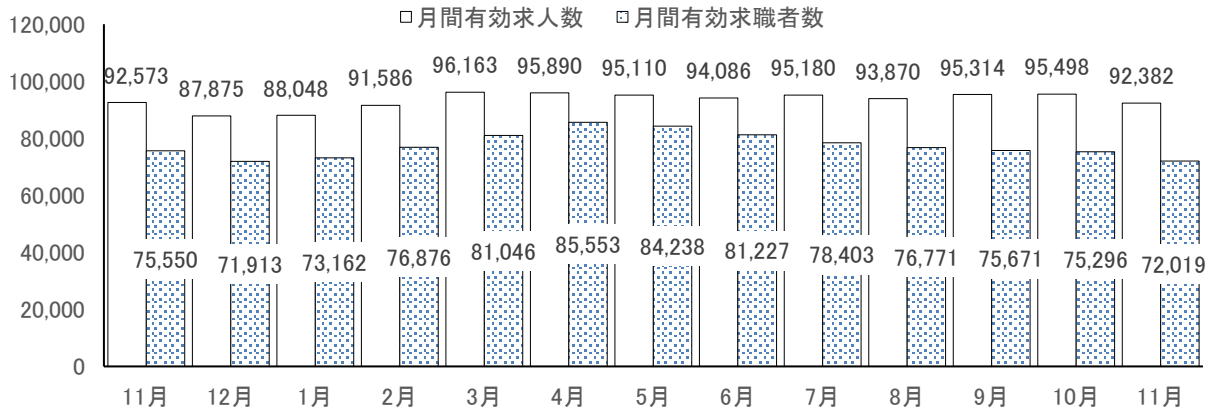
(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～改善が進む中、人手不足感がみられる

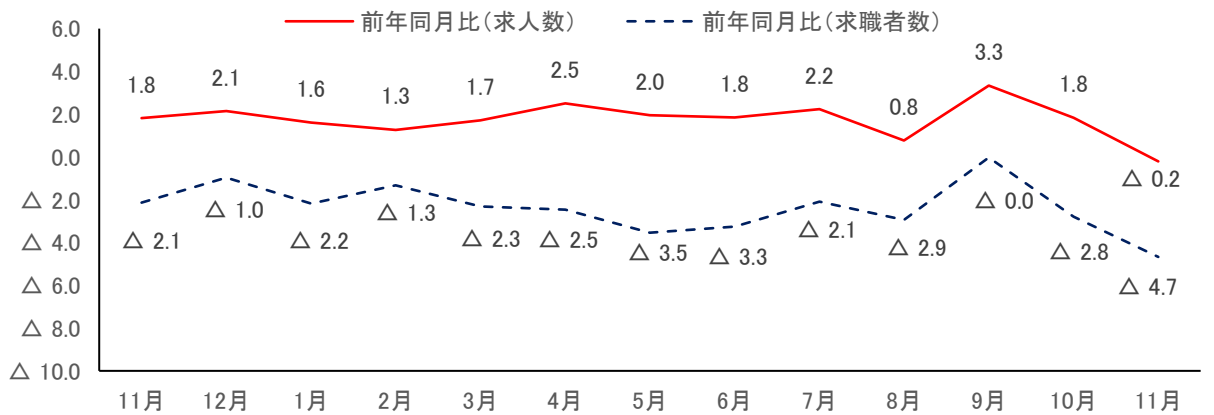
月間有効求人数・求職者数（11月）

月間有効求人数は、9万2,382人で前年同月比0.2%の減少となり、14か月ぶりに前年を下回った。月間有効求職者数は、7万2,019人で同4.7%の減少となり、97か月連続で前年を下回った。

(人)



(前年同月比：%)

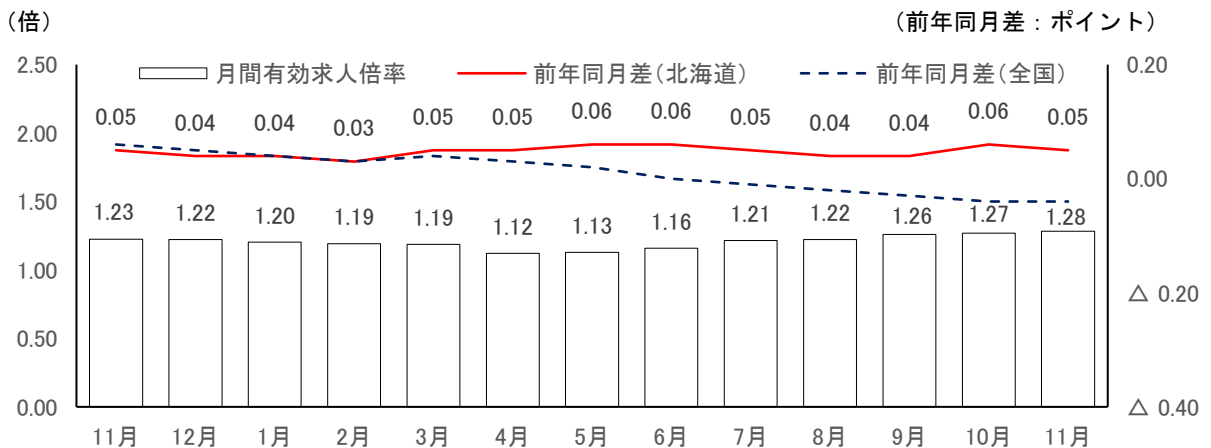


(資料：北海道労働局)

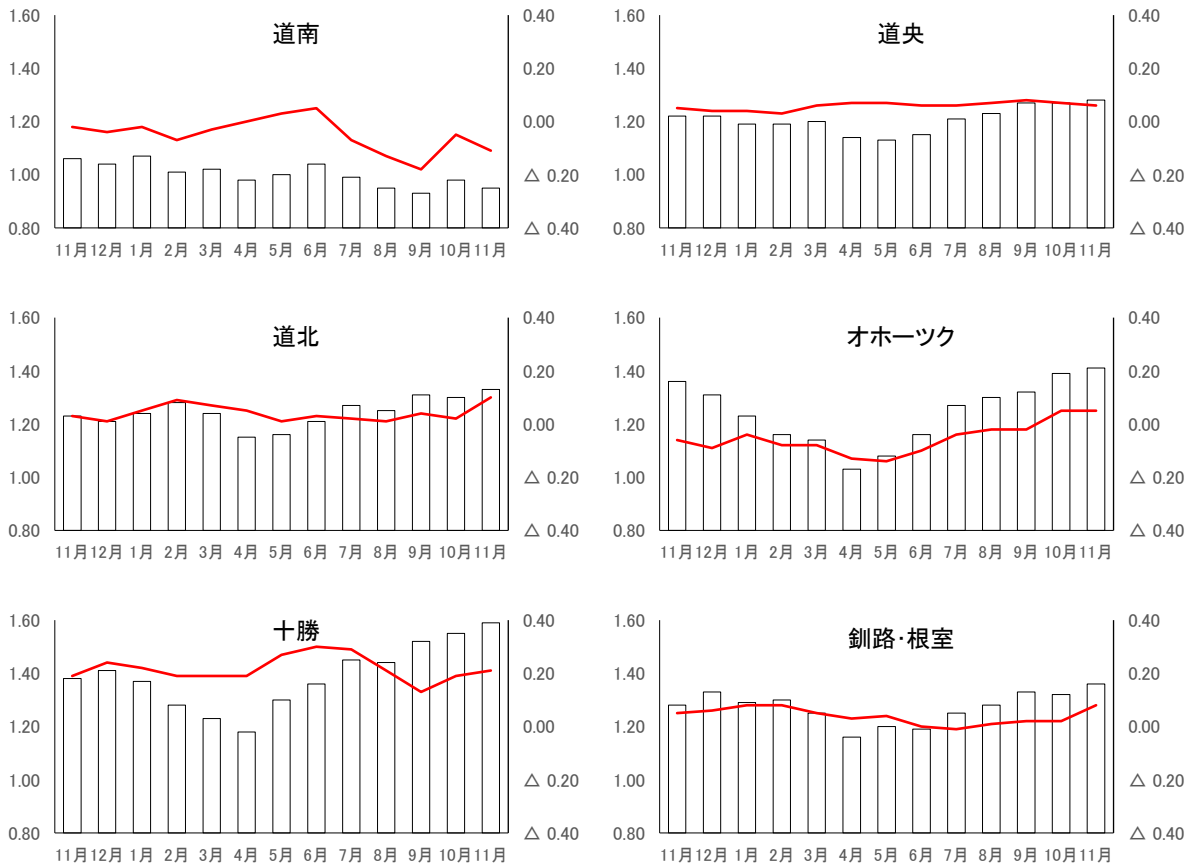
月間有効求人倍率（11月）

有効求人倍率は1.28倍で、前年同月差で0.05ポイントの増加となり、118か月連続で前年を上回った。

(倍)



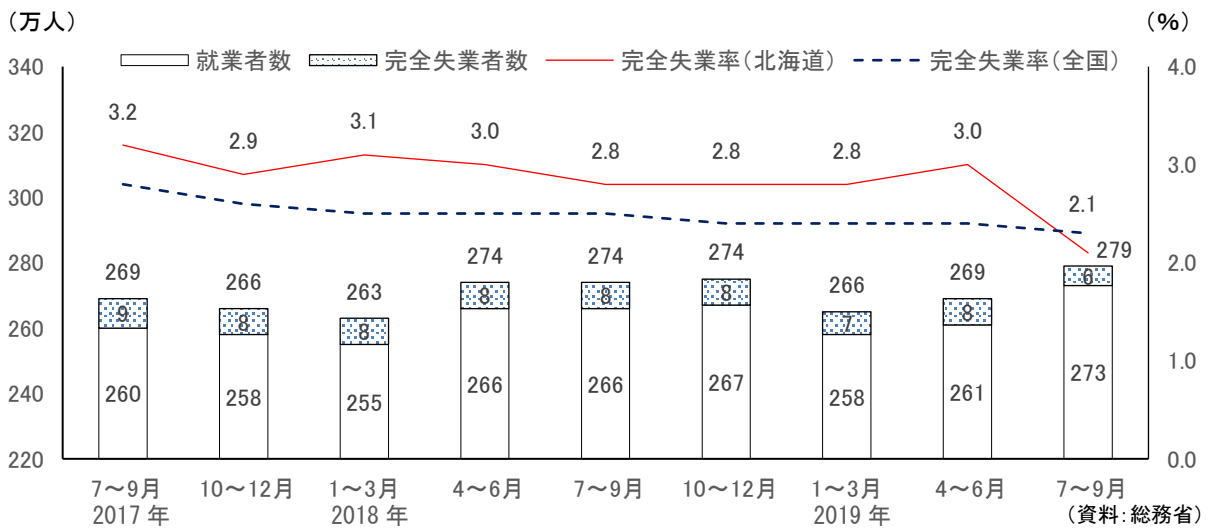
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料: 北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和元年7月～9月）

完全失業者数は、6万人で前年同期と比べ、2万人の減少となっている。
完全失業率は、2.1%で前年同期と比べ、0.7ポイント低下となっている。

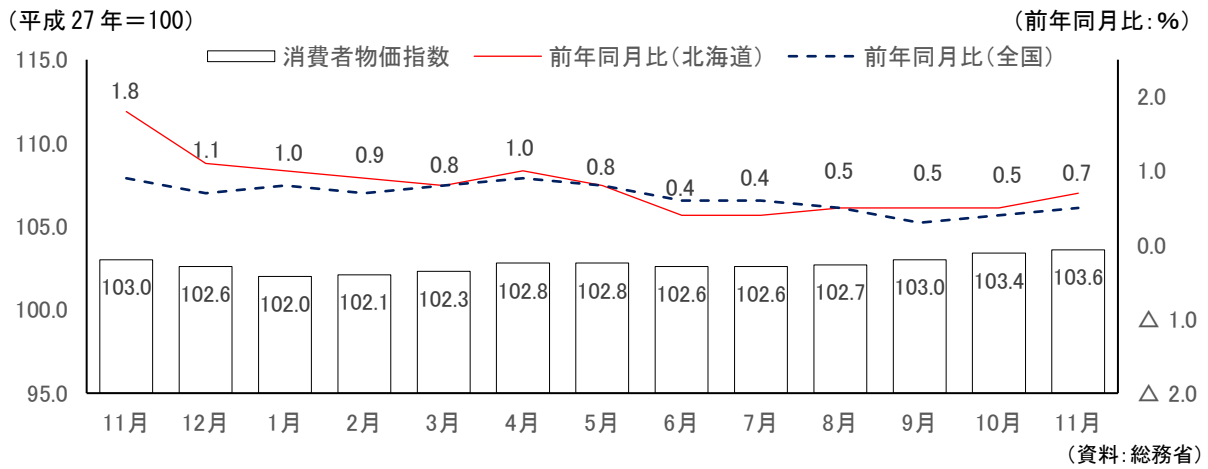


(資料: 総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を上回った

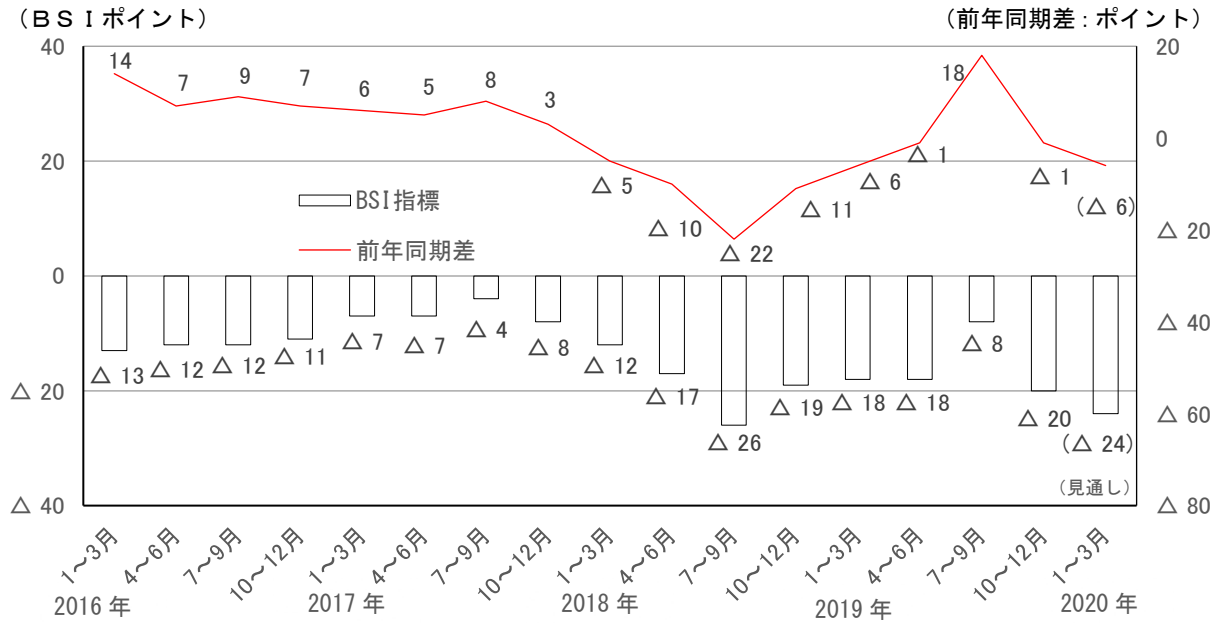
消費者物価指数（11月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、103.6で前年同月比0.7%の上昇となり、36か月連続で前年を上回った。

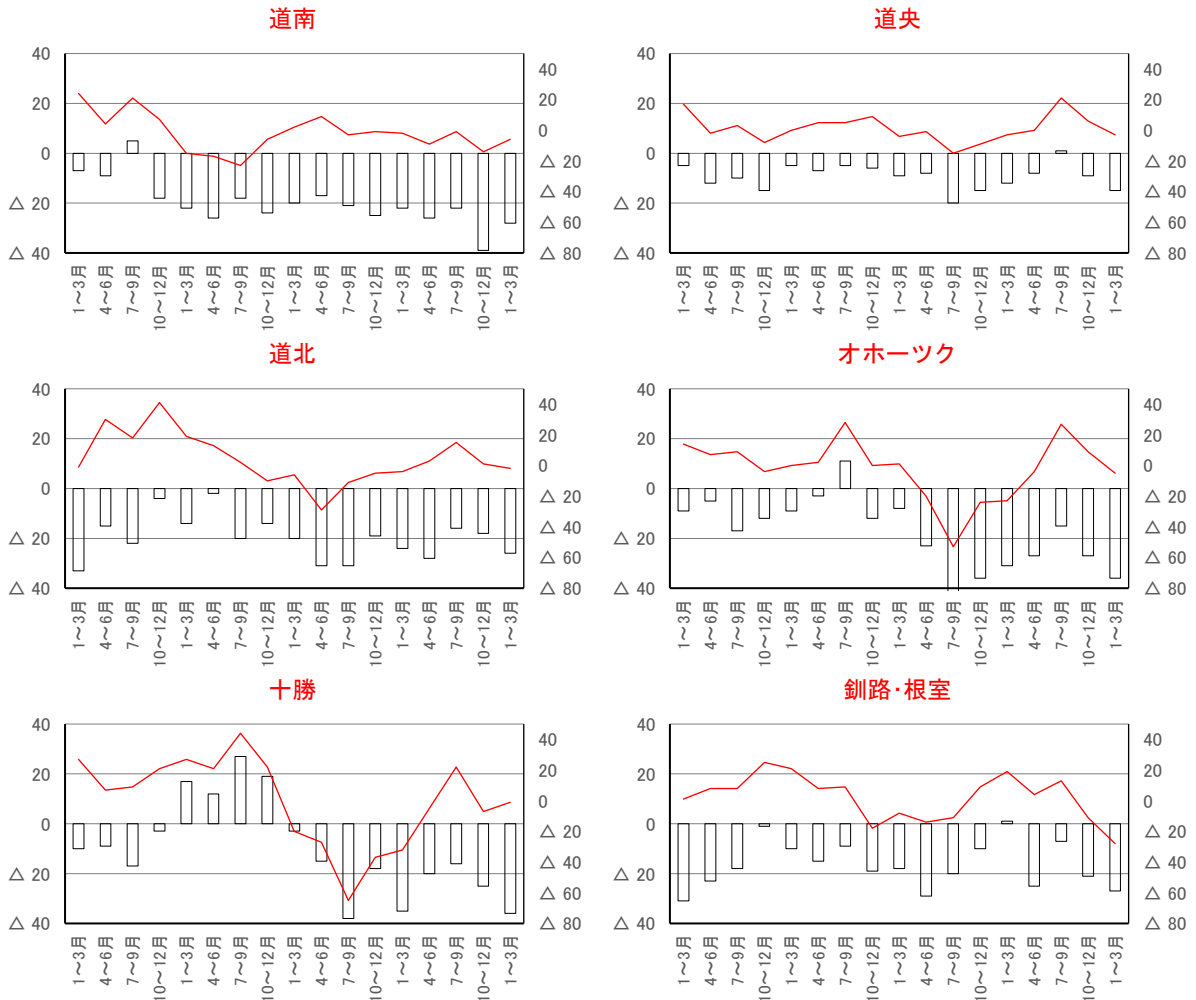


■企業経営者意識調査～前期から下降している

令和元年10～12月期の業況感BSIは△20で、前期から12ポイント下降しており、前年同期より1ポイント下降している。来期は△24ポイントで、今期から4ポイント下降の見通しとなっている。



■各圏域の業況感BSI (右軸：前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【駆け込み購入の反動減から回復の動き】

12月は特選ブティック等高額品の売上が前年比を若干上回る状況となっているほか、消費増税後低調であった衣料品も足下で回復傾向にあるなど、駆け込み消費の反動減の影響が薄らいできている。

【インバウンド売上は高額品中心に好調】

12月以降、インバウンドの売上は、客数が減少しているにもかかわらず、前年比を上回る状況が続いている。化粧品の売上は前年を下回っているが、特選ブティック品や宝飾品の売上が好調。

◆スーパー（道央地域）

【売上は全体的に堅調】

12月は前年と比較して土曜日と祝日が少なかったが、天候が穏やかで雪が少なかったことがプラス要因となり、売上は全体的に堅調であった。日用雑貨や酒類に消費増税前の駆け込み需要の影響がまだ少し残るものの、クリスマス・年末の際物は概ね堅調で、特に健康志向に配慮したクリスマスケーキや、新規デザインのしめ飾り等の動きが良かった。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【ケーキやおせちが好調】

12月は穏やかな天候だったため、客足が安定した。クリスマスが平日だったことにより、通勤帰りに予約したケーキやオードブルを購入する客数が増加した。また、年末年始の休みが長期間だったこともあり、本州などからの帰省が増えたと思われ、おせちの予約が好調だった。

◆建設業（道央地域）

【売上は横ばい】

ここ2、3か月の売上は、前年同期との比較で横ばいが続いている。注文住宅を中心に扱っているが、受注に関して消費増税による駆け込み需要や反動減を実感することはないものの、全体的に集客が減少傾向にある。今年の業況については、対策を講じながら横ばいを維持したい。職人と建築資格者の高齢化による人手不足の影響は今後とも懸念材料である。

◆建設業（道央地域）

【今年度の受注高は横ばい】

今年度請け負った建築工事は、病院や学校の新築や改築工事などで、土木工事は、胆振東部地震の災害復旧事業などだったが、総受注高は昨年度と比べて横ばい。

【人手不足の中、福利厚生の充実を図る】

就職氷河期の数年間、採用人数を大幅に減らしたため、特に30代の正社員が少ない。近年の建築業界の人手不足の中、資格補助、奨学金の返済の援助など福利厚生を充実させている。

最近の経済動向

令和2年1月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>